

やさしい気もち

小 二

わたしは、いどうに電車をつかうことが多いです。朝や夜はとてもこんでいて、おしくらまんじゅうのようになることがあります。その日の夜も、お母さんといっしょに立っている

と、
「つぎのえきでおりのので、すわってください。」

と前にすわっていた女の人が、わたしにせきをゆずってくれ

ました。つかれて足がいたいなあと思っていたので、わたしはよろこんでそのせきにすわりました。お母さんは、その女の人に何どもおれいを言っていました。帰り道でお母さんは、

「まわりの人も、一日しごとや学校に行った帰り道は、みんなつかれているんだよ。だから、やさしくしてもらったらきちんとおれいを言わないといけないね。」

と言いました。わたしはそのときまで、小さな子どもだから、大人にやさしくしてもらって

もあたり前だと思っ
ていました。だから、
そのことばを聞いて
からは、せきをゆず
ってもらったことが
あったら、かならず
その人に、

「ありがとうございます。」

と、おれいを言うこ
とにしていきます。

わたしは、そのこと
があつてから電車の中
ではまわりをよく見
てみるようにしまし
た。電車の中にはお
年より、体や足のふ
じゆうな人、つかれ
ている人などいろい
ろな人がいます。そ
の中で、せきをゆず
ろうとして

いる人もいかに多
いと思いましたが。わ
たしは少しのやさし
さがとても大切だと
かんじました。みな
ながやさしくなれる
とよいと思います。